

愛知県「地域防災ネットワーク活動推進事業」

# 防災運動会 プログラム



**主催** 愛知県

**共催** 大府市

**運営** 防災運動会実行委員会

委員会メンバー

横根山自治会、北山コミュニティ推進協議会、北山さくら会、

父ちゃんソフト、大府市身体障害者福祉協会、

おおぶ防災ボランティアグループ、大府市社会福祉協議会、中京女子大学、

愛知県、大府市、レスキューストックヤード、ナックプランニング

## ●目的

東海・東南海地震などへの警戒が高まっています。阪神・淡路大震災や新潟県中越震など、過去の災害現場からは、「自分のいのちは自分で守る。自分たちの地域は自たちで守る」ことが何よりも大切な視点だと教えてくれます。しかし「防災」というとどうしても硬いイメージが付きまとい、備えの重要性はわかっているにもかかわらず、なかなか行に結びつかないことも課題のひとつとなっています。

そこで、「地域みんなの参加を得て、楽しく学ぶ」手段として、防災運動会を開催します。このプログラムは、地域の構成員である自治会・地縁団体・学校・各種団体・自他等が協働し、毎月の会議を経て競技メニューを考案してきました。まさに地域による手くりが特徴であり、こうした事前の取り組みも含めて、本企画がますます地域のネットワークを深め、安心・安全な地域づくりに貢献するものと願っております。

## ●日時

- ・ 2006年11月18日(土)
- ・ 午前9:00～午後3:30(雨天の場合、第一体育館にて開催)

## ●場所

- ・ 中京女子大学グラウンド(会場図参照)

## ●実施概要

- ・ 50名程度で6地区対抗
- ・ 基本的にチーム対抗とし、速さだけでなく、正確さ、丁寧さ、独創性などを総合的に評します。
- ・ 競技により、チームから選抜した数名もしくはチーム全員参加とし、一人につき1～3技程度に参加いただきます。

## ●審査員

- ・ 谷口仁士(名古屋工業大学大学院教授)／審査員長
- ・ 竹内正美(中京女子大学非常勤講師)
- ・ 竹内幹夫(愛知県防災局防災危機管理課長)
- ・ 浜島和明(大府市市民協働部生活安全課長)

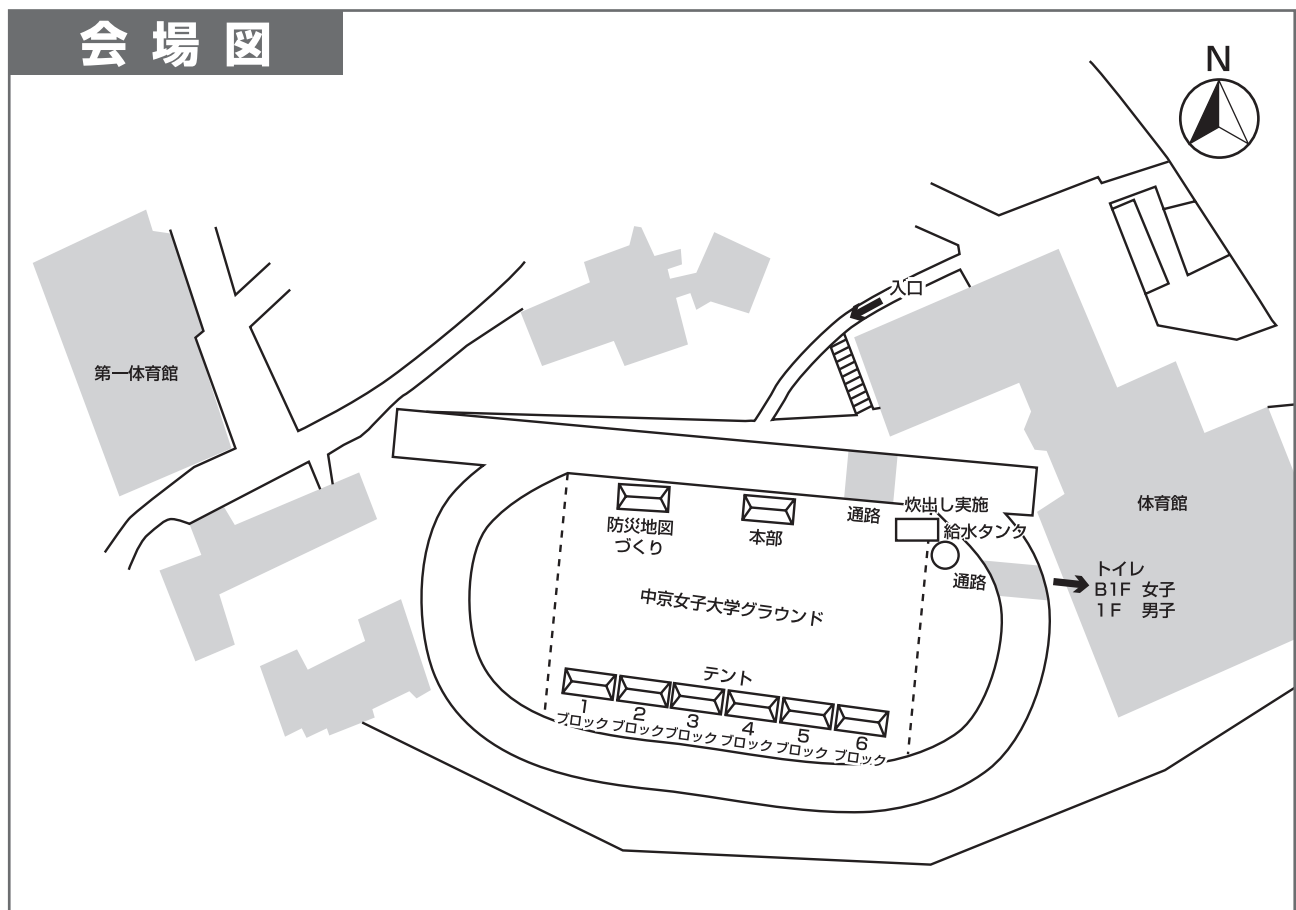
## ●総合司会

- ・ 斉藤隆信(NHK名古屋放送局アナウンサー)

※敬称

## ●タイムスケジュール

時間	防災運動会内容
9:00	集合
9:00 ~ 9:15	地区ごとに随時テント設営
9:15 ~ 9:30	挨拶(実行委員長および主催者:愛知県)・ガイダンス
9:30 ~ 10:15	競技1 安全・安心搬送リレー
10:15 ~ 11:00	競技2 「火事だー」大声競争
11:00 ~ 11:45	競技3 防災借り物競走
12:00 ~ 13:00	昼食・炊き出し
13:00 ~ 13:45	競技4 水パック消火競争
13:45 ~ 14:30	競技5 バケツリレー
14:30 ~ 14:45	講評(審査員長:谷口教授)・表彰
14:45	後かたづけ
15:30	解散



# 安全・安心搬送リレー

利用できる物を活用して簡易担架を作り、倒れた人、けが人を病院に運ぶ。

## ●参加人数と、チーム編成

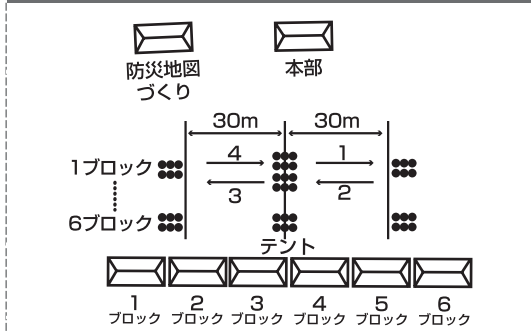
○7名(救護者1名、搬送者6名)×4組を1チームとして、6地区対抗戦とする。

※参加者の合計は、168名

○1チームの編成は自由(ただし、救護者は高齢者、身体障害者、子どもを基本とする。)

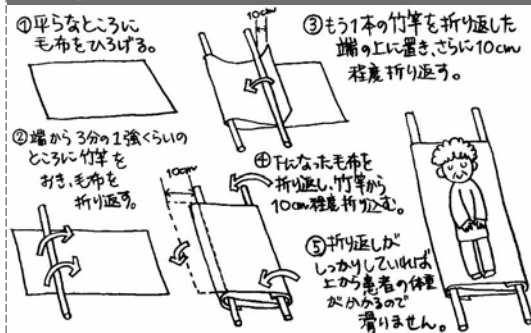
## ●競技方法

### グラウンドのイメージ



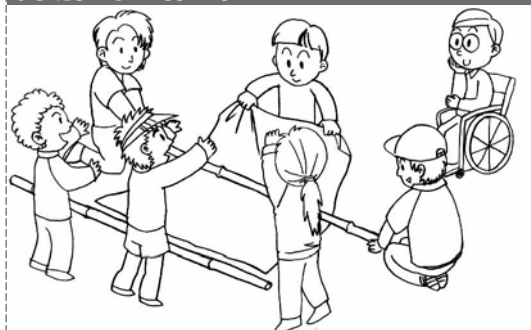
②1区間を30mに区切り、それぞれの位置に搬送者を配置する。

### 簡易担架



③簡易担架(青竹に毛布を巻いたもの)を6組用意する。簡易担架の折り返しが安全であることを確認できたのちに搬送する。

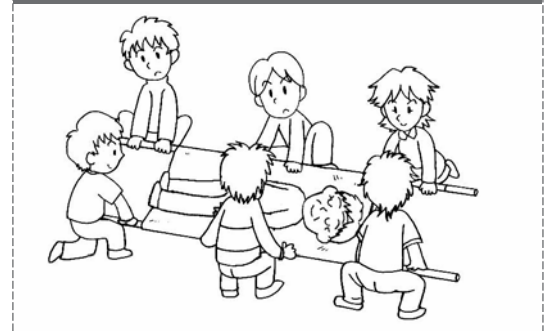
### 簡易担架を作り直して、スタート



⑥次の競技者は、簡易担架を受け取ったら、一旦毛布を外し、再度担架を作り直してから、救護者を乗せて走る。全員が、安全かつ迅速に走り終わったチームの勝利となる。

①競技前にオリエンテーションを行い、作り方を指導、またこの競技が「速さ」を競うのではなく、あくまでも搬送の「安全性」「正確性」を競う競技である事を周知する。

### 搬送6人+救護者1名で1組

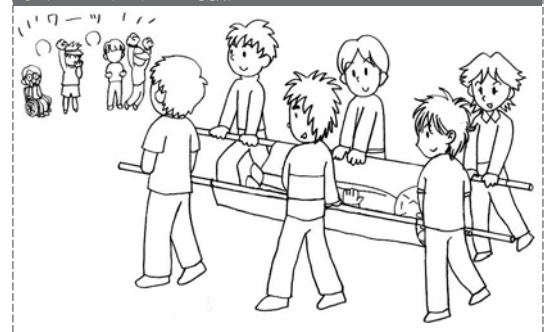


④簡易担架に救護者を乗せて、6人で次の味方のチームの所まで走り、着いたら簡易担架を渡して、次の人と交代する。

**POINT!** 運ぶ時の人の重さを体験する。

救護者は、子ども、高齢者、身体障害者とする。(搬送者が順番に救護者の役になってもよい)

### 安全で迅速な搬送



⑤6人で救護者の安全を守りつつ、迅速に搬送する。

## ●準備品

③ ○毛布6枚、青竹(180cm~200cm、直径6~8cm程度)12本

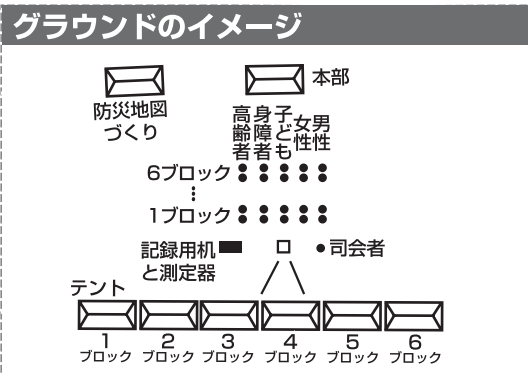
# 「火事だー」大声競争

大声で「火事だ!」と叫び、周囲に知らせるのは初期消火の最大のポイントの一つである。

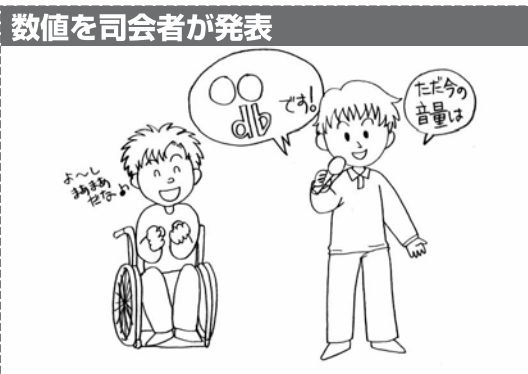
## ●参加人数と、チーム編成

- 5名を1チームとして、チームごとの声の大きさ(db)の合計を競う。6地区対抗戦とする。
- ※参加者の合計は、30名
- 1チームの編成は高齢者、身体障害者、子ども、女性、男性の5名を基本とする。(できるだけ、年代や性別の違う編成とする。)

## ●競技方法



①地区別で属性ごとに並ぶ。



③声の大きさ(db)の数値を司会者がワイヤレスマイクを使って発表する。



⑤声の大きさ(db)の数値をチームごとに合計し、一番数値の大きなチームを勝ちとする。

**POINT!**

チームの合計とともに、個人の大声MVPなどの賞を設ける。



②大きさを測る測定器を1つ用意する。1人ずつ大声で「火事だー」などの決められた言葉を叫び、その声の大きさを測定器で計り、次の人と交代する。

**POINT!**

叫ぶ言葉を変えても良い。  
 例えば  
 子どもは「誰か助けてー」  
 女性は「きゃー」  
 男性は「火事だー〇〇」



④終わった人は、列の最後尾に並ぶ。

## ●準備品

- 測定器を1器

# 防災借り物競走

災害時に本当に必要な道具は何なのか？  
非常持ち出し品を使った借り物競争を行い、楽しく学ぶ。

## ●参加人数と、チーム編成

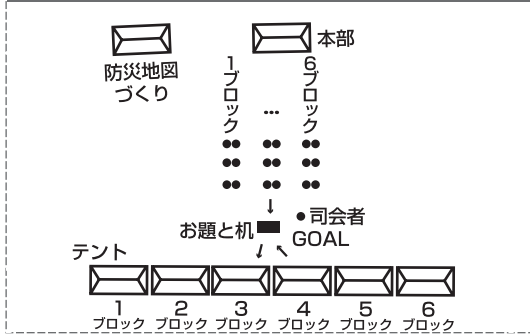
○2名×3組を1チームとして、6地区対抗戦とする。

※参加者の合計は、36名

○1チームの編成は自由。

## ●競技方法

### グラウンドのイメージ



①スタート地点から、お題のある机に走る。  
2名を1組として、1回に6地区が参加。  
競技は3回行う。

### 借りに行く



③所属する各地区のテントや観客の元に行き、お題に適した物を借りてくる。

### 結果発表



⑤3回の合計点が高いチームが勝ちとする。

### 机の上のお題を確認する



②借りる物を書いた紙(1回に6枚ずつ)を用意して机の上に置いておく。

### POINT!

お題は非常用持ち出し袋の物や、水を入れる物(例えば最後のバケツリレーでこれを使う)など。また、その場の雰囲気をも明るくするという概念でも良いとする。例えば「明るくなるもの」。それは懐中電灯、ろうそく、子どもの笑顔…。借りてきた物のユニークさやセンスを競う。

### 司会者の所へ借り物を持って行く



④各チームのお題と借りてきた物が何なのか、司会者が実況中継する。より早く、お題に適した物を持ってきたチームから高い順位をつける。

## ●準備品

○お題を書いた紙18枚

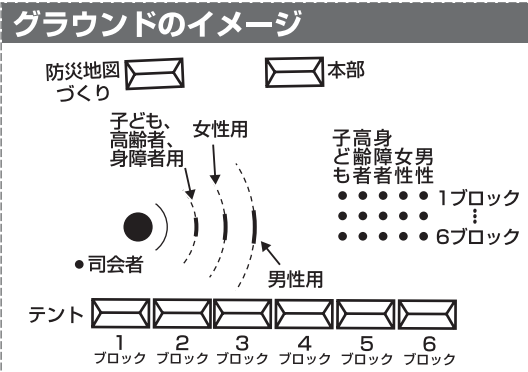
# 水パック消火競争

防災グッズのひとつである水パックであるが、実際に使用した人は少ない。このため、水パックに水を入れ、使い方を説明した後、投てきを行う。

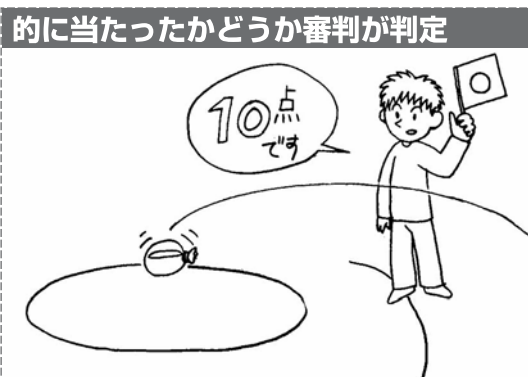
## ●参加人数と、チーム編成

- 5名を1チームとして、6地区対抗戦とする。
- ※参加者の合計は、30名
- 1チームの編成は高齢者、身体障害者、子ども、女性、男性の5名を基本とする。  
(できるだけ、年代や性別の違う編成とする。)

## ●競技方法



①地区別で属性ごとに並ぶ。



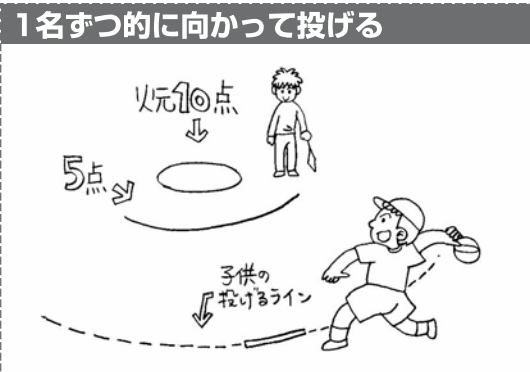
③的に入ったかどうかを審判が判定する。また的に入った得点を地区ごとに記録する。



⑤的に入った得点をチームごとに合計し、一番得点が多かったチームを勝ちとする。

## ●準備品

- 水パック30個



②予め水を入れた水パックを、火元に見立てた的に向けて1人ずつ順番に投げる。体力的なハンディを考慮して、高齢者、身体障害者と子どもは的までの距離を5m程度として、女性は10m、男性は15mとする。

POINT!

火元のエリアに入れば10点、他は5点、外れは0点とする。



④終わった人は、列の最後尾に並ぶ。

# バケツリレー

火災の初期に近隣が協力し合ってバケツリレーで水を運ぶのは、有効的な方法である。水そう、浴そう、プールバケツリレーで水を運ぶ人海戦術で消火にあたる。

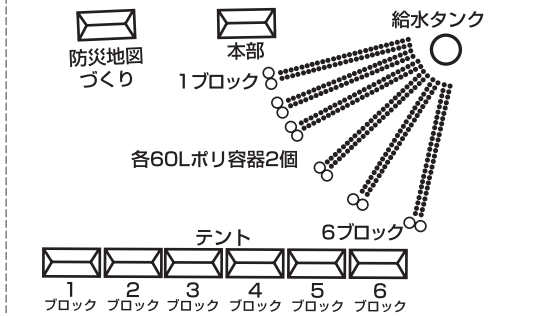
## ●参加人数と、チーム編成

○50名(全員参加)を1チームとして、6地区対抗戦とする。

※参加者の合計は、300名

## ●競技方法

### グラウンドのイメージ



①1チーム50名が給水タンクから水を運ぶ場所までまで2列の横並びになる。

### 水を横の人に渡す



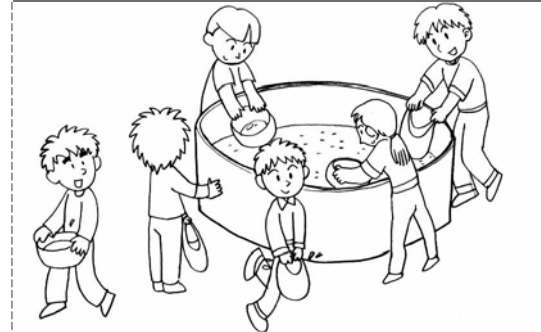
③水を運ぶ物はバケツの他に、身近にある水を運べそうな物(レジ袋、やかん、鍋、ペットボトルなど)を用意する。

### 結果発表



⑤15分間で、できるだけ多くの水を運んだチームの勝利とする。

### 給水タンクの水を汲む



②先頭の人が給水タンクの水を汲むの人に渡す。水をバケツなどに入次々と横の人に手渡して、火元でたポリ容器の中に入れていく。

### 空の容器を反対側の人に渡す



④空になったバケツなどは反対側渡し、給水タンク側へ戻す。

## ●準備品

○バケツや身近にある水を運べそうな物(レジ袋、やかん、鍋、ペットボトルなど)を20個として120個程度

○60Lポリ容器12個(1チーム2杯分)

○水の量を測定する定規



# 防災地図づくり競技

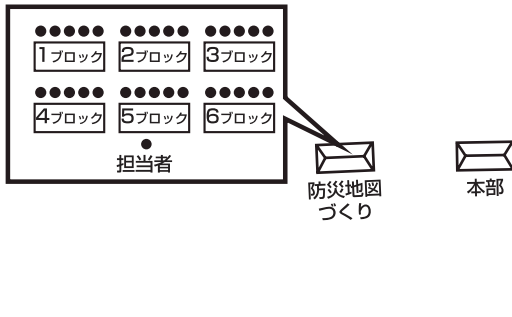
地域にどんな防災設備があるのか皆で調べて図面化し、地域の人々に知ってもらう。

## ●参加人数と、チーム編成

- 5名を1チームとして、6地区対抗戦とする。 ※参加者の合計は、30名
- 1チームの編成は自由

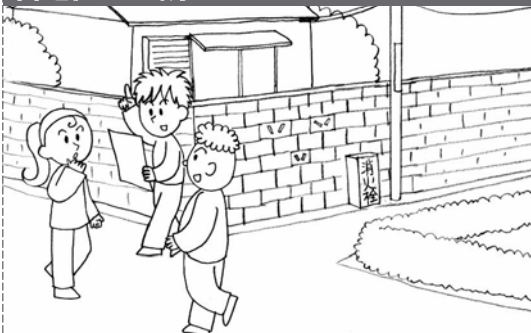
## ●競技方法

### グラウンドのイメージ



①担当者から、指定コースの地図が、出発時にチームの代表に渡たされる。

### 各地区での調査

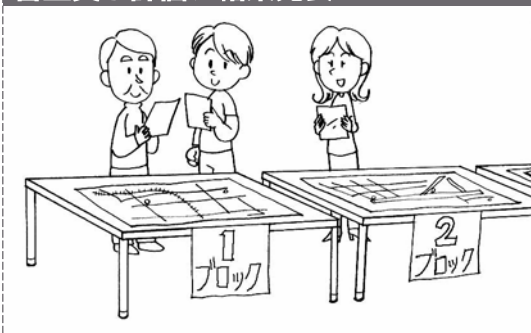


③それぞれのチームごとに指定箇所(各地区)に分かれ、指定されたコースの防災設備や危険箇所の位置を1時間で調べ、競技会場に戻る。

#### POINT!

大会前に上記の位置を調査してもよい事とするが、指定コースは当日に配布されるため、必ずしも調べていた場所とは違う可能性がある。

### 審査員が評価、結果発表



⑤できるだけ分かりやすく、きれいに図面化したチームの勝ちとする。

### 地図をもらい、3名は指定の場所へ移動

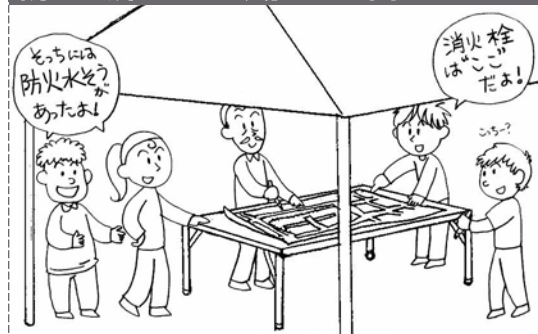


②1チーム5名の内、3名程度が指定箇所へ行き、残りの2名は競技会場に残る。誰が行くかは、それぞれのチーム内で決定する。

#### POINT!

地域の指定箇所に行く競技者は、交通事故の無いように安全性に十分配慮する。

### 調査が済んだら会場での地図づくり



④競技会場に戻り、予め地図作製を進めていた3名とともに、調べてきた位置を記入する。

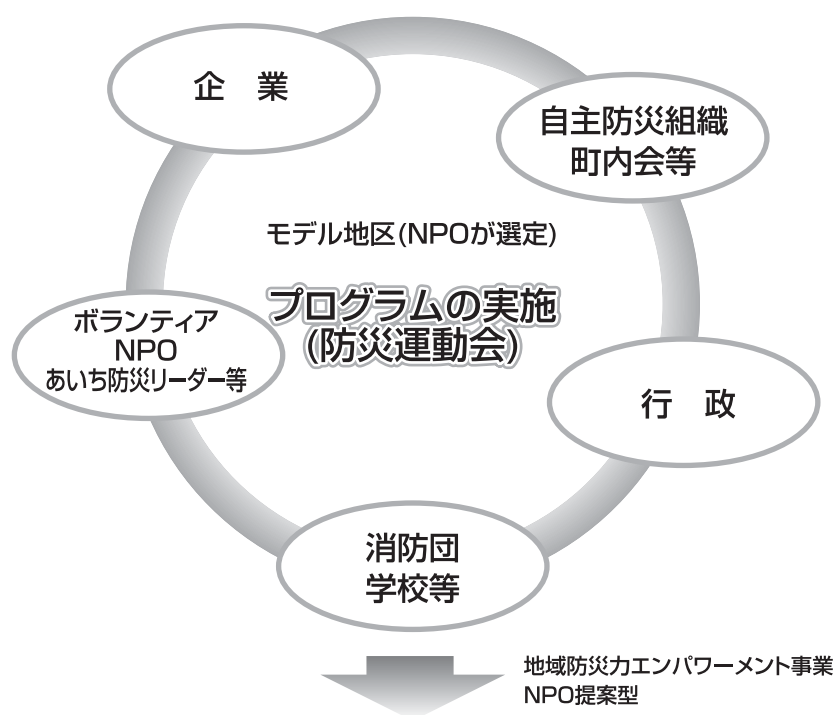
#### POINT!

消火栓、消火器、防火水そう、防災倉庫の見落としは減点とする。

## ●準備品

- 地図作製のための机のスペース6箇所
- 文具関係、色マジック等
- 指定するコースの地図(A3サイズ)6地域分、地域別の白地図(A1サイズ)6地域分=住宅地図で作成

# 愛知県「地域防災ネットワーク活動推進事業」



## 地域防災ネットワークの構築

### 問い合わせ先(企画・運営)

【事務局】 特定非営利活動法人レスキューストックヤード  
〒464-0032 名古屋市千種区猫洞通5-21-2 ライフピア本山3階  
TEL : 052-783-7727 / FAX : 052-783-7724  
E-mail : info@rsy-nagoya.com

協力:株式会社ナックプランニング

※本書の一部または全部を無断で複写、複製することを禁じます。